

日水産経済新聞

THE SUISAN-KEIZAI

2017年(平成29年)

10

18 (水)
Wednesday

発行所 水産経済新聞社 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番19号 電話 03-3404-6531(代) FAX 03-3404-0863

道秋サケ 標津・Bメス

空前の2000円超え

大不漁、買付け過熱

イクラ販売に懸念

【札幌】北海道・標津の秋サケBメスの浜値が16日、ついにキロ2000円に達した。道内秋サケ漁が近年にない不漁で供給見通しがタイトとなる中、原料や仕事確保のための需要がさらに高まった。ここまでの道内相場からすると、醤油イクラは空前の1万円超えとなる見込みで、消費地では製販販売への懸念が募っている。

道内秋サケ漁は序盤から原卵の買付けをやめ、不振が続く。北海道漁連の日報によると、16日現在の累計漁獲は前年同期比33%減の約4万1000トンにとどまっている。こうした中、浜相場は当初から過熱。特にイクラ在庫底を背景にメスで顕著で、指標となる標津のBメスの価格は9月下旬から上げ足を強め、高値は18000円、19000円と上昇。16日、ついに大台を超えた。17日も高値20100円で、不漁だった昨年同日をさらに6割方上回るレベルに達している。2015年同日の高値は8600円だった。

道内他地区も同様に高相場が続いている。背景には加工業者側の製品納入義務や、工場稼働確保のための「仕事買い」がある。こうした状況が高まっているので、すでに

輸入物へ需要シフト

一方、消費地では製品価格ではない「荷受」、需消化や需要縮小への懸念があるとしても年内の需が高まっている。札幌市場の荷受は「道産生筋子」のここまでの平均価格はキロ7000円近くに達しており、前年より5割高い。販売量は5割以上落ち込む可能性がある」と話す。醤油イクラについては「過去最高の1万円超(加工業者)になる」とみられているが、「いくら供給量が減るといっても、すんなり売れる価格ではない(荷受)」、「需切り替えを検討せざるを得ない」と話している。

道秋サケ、10月も苦戦

魚価高で金額は16%増に

【札幌】道が16日に発表した秋サケ漁獲速報によると、10月現在の全道漁獲尾数は前年同期比33%減の1121万2000尾となった。10月上旬(1～10日)の漁獲は前年同期比15%減の437万尾と不振が続いている。地区別に見ると、大半が前年同期を下回ったが、オホーツクの西部、えりも以西の道南、日本海の全地区では

前年を上回った。道内秋サケ漁が不漁となる中、日本海は例外的に漁獲が憶目に伸びている。

2017年度秋サケ漁獲速報
(10月10日現在)
(単位=尾数・千尾、金額・百万円)

系統群	漁獲尾数	前年同期比	漁獲金額	前年同期比
オホーツク	6,764	72%	25,615	131%
根室	1,384	46%	4,899	78%
えりも以東	577	29%	1,983	46%
えりも以西	846	80%	2,813	123%
日本海	1,641	141%	4,493	227%
総計	11,212	67%	39,803	116%

※数値はすべて小数点以下を四捨五入
(北海道連合海区漁業調整委員会調べ)

順調で、累計数量も唯一、前年同期を上回っている。

一尾当たりの累計平均単価は前年同期比71%高の3550円と高騰。漁獲金額は16%増の39803億円に伸びている。